

【事例Ⅱ】 (概略)

コロナ禍での「親プロ」講座の工夫について

発表者：福山市市民局まちづくり推進部人権・生涯学習課

福山市内での「親プロ」の実施状況は資料のとおりです。市の方針として事業を中止にしていた期間は「親プロ」も実施していませんが、それ以外の期間は、主催者から応募があった場合は、コロナ禍で人と会う機会を求める方も多いと思うので、主催者と綿密に打ち合わせして感染対策に配慮した上で「親プロ」を実施している状況です。福山市では、市主催でなく、出前講座として行っていて、このような状況になっています。

コロナ対策が必要になった時点で、担当職員十数名で協議し、対応方法をまとめました。1)主催者への依頼、2)ファシリテーターへの依頼、3)講座内容の工夫をまとめたものの3つです。1・2の内容は、検温、体調の確認、マスク、使用物品の消毒、消毒液の設置等で、3の内容の工夫は、参加者間に1m以上の間隔を確保、換気のタイミング、接触や発声をなるべく抑えるといったお願い、その他に、グループ内の話し合いの時間を通常は長めに取っていたものを時間短縮、託児用玩具の設置を中止する一方、コロナ禍での参加者の工夫や悩みを交流する時間を特別に設け、ストレスを軽減する内容に工夫した内容にまとめています。情報を担当職員全員で共有して、統一した対応がとれるようにしています。

会場ごとの、参加者の状況等に合わせた工夫としては、机の配置の工夫や、意見交流を各グループに分けず、全体でファシリテーターが話をふる工夫をしました。意見交流の時には、話すだけでなく、見て交流できるように、大きい付箋を使って、読むことで交流できるよう工夫しました。これは以前、聴覚障害の方を含む会場で「親プロ」を実施したファシリテーターさんの提案から取り入れた工夫です。また絵本を使うプログラムを実施する際は、事前に図書館司書に絵本の消毒方法を確認し、表紙と裏表紙は消毒用ペーパーで毎回拭き、参加者全員手袋をはめて同じものを直接触らない工夫をしました。参加者名簿を作成して追跡できるようにした会場もあります。

福山市もオンラインでの「親プロ」開催を検討しましたが、今年度は機器などの準備ができませんでした。次年度は環境が整いそうなので、取り組んでいこうと思います。

コロナ禍で「親プロ」はしていますが、ファシリテーターの福山市独自の研修会の開催が難しいので、他の市町の取組を参考にして、ファシリテーター通信を発行して研修の代わりとしています。

○質問：ファシリテーター通信には具体的にどのような事が掲載されていますか？

○回答：担当者からのメッセージ・講座の実施状況・新しいプログラムの内容・県のステップアップ研修の内容報告・年度初めは新しい担当者の紹介も載せました。

○質問：福山市に申し込む講座の主催者・団体はどんなところですか？

○回答：例年は小・中学校のPTAの集まり、子育て支援サークル、公民館・コミュニティセンター、保育所や幼稚園の保護者研修会、就学前に集まる母親サークルなどです。子育て支援センターでも実施したくて、話を持って行っていたのですが、今年は子育て支援センターが一切事業をしていないので実現していません。